

文書番号	SJB018
版 数	26.0 版
制定日	2 0 0 2 年 1 0 月 3 0 日
改訂日	2 0 2 5 年 0 4 月 1 0 日

環 境 経 営 レ ポ ー ト

2 0 2 4 年度

(2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)



昭北ラミネート工業株式会社

目 次

内 容	頁
表紙	1
目次	2
改訂履歴	3～4
I 章 事業活動の概要	4～7
II 章 環境経営方針	8
III 章 活動内容	—
A. 二酸化炭素排出量の削減	9～10
B. 産業廃棄物排出量の削減（金属屑）	10～11
C. 産業廃棄物排出量の削減（廃プラスチック）	11～12
D. 水使用量の削減	12～13
E. 化学物質の使用量の削減	13～14
F. 自らが生産・販売する製品に関する項目	14
IV 章 環境関連法規等の確認と遵守	15
V 章 異常時の処理	15
VI 章 環境コミュニケーション	15

改 定 履 歴

版	改訂年月日	頁	改 訂 内 容
1	02 年 10 月 30 日	全章全頁	環境行動計画書 2002 年度版 制定
2	02 年 11 月 1 日	I 章	責任と権限項を追加
		V 章	取り組みに教育を追加
		VI 章	改定
3	03 年 04 月 08 日		環境行動計画書 2003 年度版 制定
4	04 年 05 月 18 日		環境行動計画書 2004 年度版 制定
5	05 年 03 月 09 日	全章全頁	2003 年度版と 2004 年度版を再編集して環境活動レポート 2003 年度版 を作成
6	05 年 04 月 28 日	全章全頁	環境活動レポート 2004 年度版 作成
7	06 年 05 月 22 日	全章全頁	環境活動レポート 2005 年度版 作成
8	07 年 05 月 11 日	全章全頁	環境活動レポート 2006 年度版 作成
9	08 年 05 月 15 日	全章全頁	環境活動レポート 2007 年度版 作成
1 0	09 年 05 月 13 日	全章全項	環境活動レポート 2008 年度版 作成
10.1	09 年 05 月 21 日	全章全項	営業車ガソリン - CO2 排出量把握 A～G項目別に中期目標を設定
10.2	09 年 06 月 11 日	I 章 7 項 ① II 章 V 章 VI 章	社長の権限と責任に e 項を追記する 環境方針の社長署名欄に社名を追加する 報告年度の結果を記載するようにフォームを変更 報告年度の結果を記載するようにフォームを変更
11	10 年 05 月 09 日	III 章 A III 章 E	環境活動レポート 2009 年度版 作成 III 章 A (1) 都市ガス投入量 2008 年度の数値 III 章 E (1) 総排水量 2008 年度の数値 誤入力あったため修正
11.1	10 年 06 月 17 日	III 章	各目標値の設定を明確にするように修正 その他、レポート全体を見直し修正
1 2	11 年 05 月 09 日	全章全項	環境活動レポート 2010 年度版 作成
12.1	11 年 06 月 15 日	III 章 G	次年度の取り組み誤記修正
12.2	11 年 06 月 27 日	III 章 A	加工当たりの総量の計算ミスを修正
13.0	12 年 04 月 25 日	全章全項	環境活動レポート 2011 年度版 作成
14.0	13 年 04 月 13 日	全章全項	環境活動レポート 2012 年度版 作成
15.0	14 年 05 月 08 日	全章全項	環境活動レポート 2013 年度版 作成
16.0	15 年 05 月 02 日	全章全項	環境活動レポート 2014 年度版 作成
17.0	16 年 04 月 22 日	全章全項	環境活動レポート 2015 年度版 作成
18.0	17 年 04 月 03 日	全章全項	環境活動レポート 2016 年度版 作成
19.0	18 年 04 月 28 日	全章全項	環境活動レポート 2017 年度版 作成
20.0	19 年 04 月 26 日	全章全項	環境経営レポート 2018 年度版 作成
21.0	20 年 05 月 20 日	全章全項	環境経営レポート 2019 年度版 作成
22.0	21 年 04 月 28 日	全章全頁	環境経営レポート 2020 年度版 作成
23.0	22 年 04 月 21 日	全章全項	環境経営レポート 2021 年度版 作成
24.0	23 年 04 月 20 日	全章全項	環境経営レポート 2022 年度版 作成
25.0	24 年 04 月 10 日	全章全項	環境経営レポート 2023 年度版 作成

版	改訂年月日	頁	改 訂 内 容
26.0	24 年 04 月 10 日	全章全項	環境経営レポート 2024 年度版 作成

I 章. 事業活動の概要

1. 事業名 昭北ラミネート工業株式会社
2. 所在地

本社工場 富山県富山市飯野 1 番地の 1
 第 2・3 工場 富山県富山市中富居新町 1 1 番 2 3 号
 東京営業所 東京都千代田区神田小川町 3-26-8 神田小川町三丁目ビル 7F
 大阪営業所 大阪府大阪市東淀川区西淡路 1 丁目 1 番 3 2 号 新大阪アークビル 9 F
 向新庄事業所 富山県富山市向新庄町 8 丁目 4 番地 4 8 号
3. 事業内容 医薬品・食品・工業資材向けアルミニウム加工箔の製造
(印刷・コート及びドライラミネート加工)

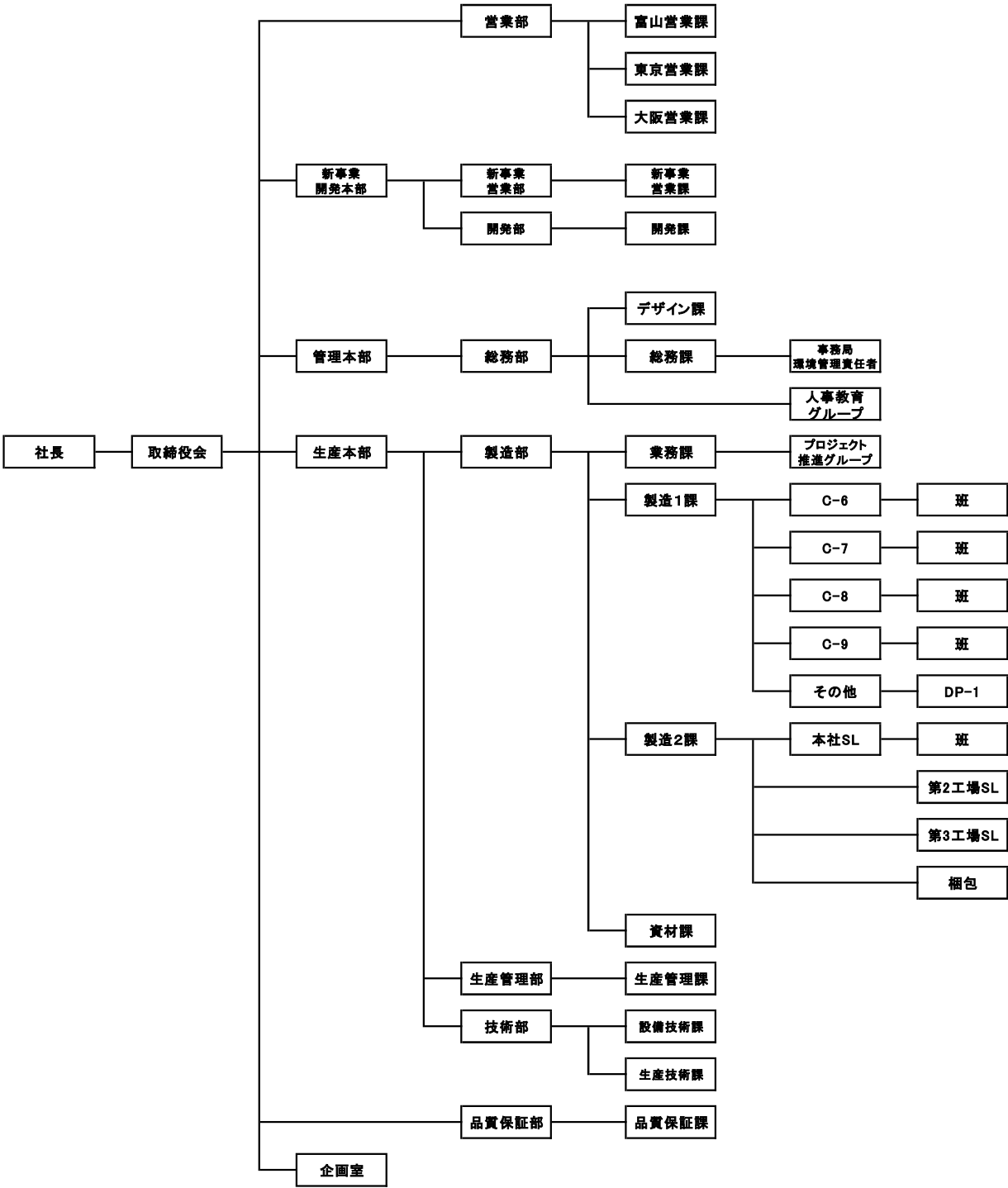
4. 事業規模

年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
コート加工量	44,200 千m	50,297 千m	39,613 千m	43,305 千m
売上高	41 億 3 千万円	44 億 9 千万円	47 億 4 千万円	49 億 3 千万円
従業員数	1 1 8 名	1 1 8 名	1 2 0 名	1 1 9 名
床面積	本社 5,756 m ²	本社 5,756 m ²	本社 5,756 m ²	本社 5,756 m ²
	第 2 2,320 m ²	第 2 2,320 m ²	第 2 2,320 m ²	第 2 2,320 m ²
	第 3 4,920 m ²	第 3 4,920 m ²	第 3 4,920 m ²	第 3 4,920 m ²

5. 組織図

【昭北ラミネート工業㈱組織図】

SJB054 第7版
改定日：2025年4月1日



6. 環境保全関係の責任者及び担当者

環境管理責任者	開発部取締役部長	四十野 信行
環境管理担当者	総務部課長	斉藤 崇裕
環境管理担当者	技術部課長	山崎 雅樹

連絡先 TEL 076-451-7466

FAX 076-451-5559

7. 責任と権限

環境に関する主要な責任と権限及び各部門長の責任と権限は以下の通りとする。

① 社長

社長は、当社が行う全ての環境保全活動に関して、これを統括する責任と権限を有する。また環境方針に基づく目的及び目標を達成するために、教育・訓練された要員の配置、必要な設備・改造及び必要な資金を適時、適切に提供する。

- a. 環境経営方針の承認
- b. 環境管理責任者の任命
- c. 環境経営レポート・環境活動計画書の承認
- d. 環境経営方針に基づく目標・目的の承認
- e. 代表者による全体の評価と見直し

② 環境管理責任者

- a. 環境経営方針に基づく目標・目的の設定
- b. 環境管理担当者の任命
- c. 環境活動の評価と見直し
- d. 外部からの環境に関する苦情・要望の受付
- e. 代表者の見直しの確認
- f. 内部監査の計画の立案

※問題がある場合は是正処置指示

※各部署に指示が出来る権限を有する。

③ 事務局・環境管理担当者

- a. 環境経営レポートの作成
- b. 環境保全活動の社内での教育・指導
- c. 環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施
- d. 社員に対する教育訓練の実施
- e. 環境活動の実績集計

④ 品質管理責任者

- a. 品質マネジメントシステムを ISO9001:2015 の要求事項に沿って確立し実施及び維持する
- b. 品質マネジメントシステムの実施状況及び改善の必要性の有無の社長への報告

- c. 品質マネジメントシステムに関しての外部機関との連絡
- d. 内部品質監査の年間計画立案
- e. 品質マニュアルの発行及び管理
- f. 標準類の発行及び管理
- g. マネジメントレビューの開催
- h. 教育・訓練の主管（計画立案）
- i. 内部品質監査員の資格承認
- j. QC 工程図の承認
- k. 工程の変更承認
- l. 設備の発注の承認

⑤ 管理本部長・新規事業開発本部長

- a. 人事・労務管理の統括
- b. 生産工程の承認と統括
- c. 購買の承認と統括

⑥ 生産本部長・新規事業開発本部長

- a. 品質方針の展開
- b. 全体ミーティングの主管
- c. 関係する標準の承認
- d. 関係する作業手順書の承認
- e. 機械設備の管理責任
- f. 安全衛生管理の統括

⑦ 全社員

- a. 環境経営方針の理解と環境への取組
- b. 自主的・積極的に環境活動へ参加

8. 事業における環境負荷項目

- A 二酸化炭素排出量の削減
- B 産業廃棄物の排出量の削減（金属屑）
- C 産業廃棄物の排出量の削減（廃プラスチック・フィルム）
- D 水使用量の削減
- E 化学物質の使用量の削減
 - 第1 指定化学物質 トルエンの削減
- G 自ら生産・販売する製品に関する項目

9. 教育・指導

環境保全活動に関する教育・指導は、毎年5月と11月の全体ミーティングで、社員全員に対して行い周知徹底を図る

Ⅱ章. 環境経営方針

環 境 経 営 方 針

1. 理念

環境にやさしい持続可能な社会の実現の一助となるべく、我社は、環境と関わり、目標を持って行動する。

2. 基本方針

我社は、環境保全が人類共通の最重要課題であることを認識し、日頃の事業活動において以下に示す活動を全従業員に周知し取り組む。

- ① 二酸化炭素排出量の削減
- ② L P ガス・都市ガスの製造時に使用する量を削減
- ③ 各製造工程において発生する廃棄物排出量の削減
- ④ 水使用量の削減
- ⑤ 化学物質の製造時に使用する量を削減
- ⑥ 自ら生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善

3. 取組方法

我社は、継続的に環境負荷の削減に取り組む。
環境関連法規の確認と遵守

日 付： 2025 年 4 月 10 日

昭北ラミネート工業株式会社

代表取締役社長 中川 雄介

Ⅲ章 活動内容

A. 二酸化炭素排出量

(1) 環境の負荷状況

年度	2021 年度		2022 年度		2023 年度		2024 年度	
	CO2 発生量	使用量	CO2 発生量	使用量	CO2 発生量	使用量	CO2 発生量	使用量
都市ガス投入量 (m ³)	337,537	156,267	553,389	256,199	485,408	224,726	498,815	230,933
L Pガス投入量(kg)	4,232,357	1,411,306	4,170,531	1,390,690	1,659,489	553,367	3,483,263	1,161,516
購入電力 (kWh)	2,586,920	4,918,099	2,615,823	4,973,048	2,566,925	4,880,086	1,716,809	4,117,709
営業車ガソリン(ℓ)	12,896	5,559	11,499	4,956	10,348.52	4,460.57	10,665.88	4,537.36
リフト軽油(ℓ)	6,548	2,538	7,114	2,757	6,889.81	2,670.47	6,781.12	2,443.34
A : 二酸化炭素排出量 (kg- CO ₂)	7,176,258		7,358,358		6,541,307.73		5,716,334.44	
*加工数量(千m) (投入数量)	44,200		50,297		39,613		43,305	
*加工あたり排出量 (電気・ガス・ガソリン)	162.35		149.87		165.13		144.66	
廃油 (t)	0	0	0	0	0	0	0	0
廃プラスチック (t)	94,874	36.49	89,414	34.39	88,790	34.15	88,296	33.96
B : 二酸化炭素排出量 (kg- CO ₂)	94,874		89,414		88,790		88,296	
*加工数量(千m)	44,200		50,297		39,613		43,305	
A + B : 二酸化炭素排出量(kg- CO ₂)	7,271,132		7,447,772		6,630,097.73		5814906.35	
*加工あたり排出量 全社	164.505		148.076		167.372		134.278	

※ 2019/8~2020/3 北陸電力の調整後 CO₂ 排出係数 : 0.574 kg-CO₂/kwh で算出した

※ 2020/4~2024/3 北陸電力の調整後 CO₂ 排出係数 : 0.526 kg-CO₂/kwh で算出した

※ LP ガスの CO₂ 排出係数 : 0.016t-C/GJ 熱量 50.8GJ で算出した

※ 都市ガス (13A ガス) の CO₂ 排出係数 : 2.21 kg/m³ で算出した

※ ガソリンの CO₂ 排出係数 2.32 kg-CO₂/L で算出した

※ 軽油の CO₂ 排出係数 2.58 kg-CO₂/L で算出した

※ レポートの計画実績の一覧表内ではなく、欄外にその実績のみを記載／総二酸化炭素排出量:7,450,342kg-CO₂/年
経産省の報告実績に基づく

(2) 本年度の環境目標

185.53 Kg/千m 「2023 年度排出量 (165.66) に受注予測(12%増)」より△2.0%削減し、
181.83 Kg/千m以下を目指す

(3) 本年度の活動取組 (計画 → 結果)

- ・2020 年度からの取組を継続して、エネルギー投入量の削減と産業廃棄物排出量の削減に取り組む
- ・改善会議を開始し、P T P 製造時の作業効率を上げる活動を継続する
- ・電気使用量を機械別に把握し確認。
- ・熱風発生装置のガスバーナーを点検清掃する事により燃焼効率を上げる
- ・夏季の空調稼働時はデマント監視装置での監視を継続する
- ・11 月より PPa を導入して、二酸化炭素排出量の削減を実施
- ・本社 SL 室空調機更新にともない、省エネ空調機に更新

(4) 結果

内容	目標	結果	判定
CO2 排出量の削減(加工あたり)	181.83 kg-CO2/千m 以下	142.86kg-CO2/千m	○

(反省) 2024 年度は、PPa の導入が 11 月からとなり、11 月～3 月のみ二酸化炭素排出量削減となった。
また、受注量も安定してきた為投入量あたりの排出量も削減でき目標達成できた。今後も
受注予測と基準年度を比較し目標を定めたい。

(次年度の取組) 引き続き昨年度と同様の取り組みを実施。切替え作業時は熱発生装置を OFF にしてガス使用量の削減を実施、PPa の導入後の CO2 削減の確認及び管理、本社 GHP エアコンの省エネタイプに更新予定。

中期目標	2025 年度	2026 年度	2027 年度
加工千mあたり CO2 排出量	157.00g-CO2/千m	153.86kg-CO2/千m	150.72kg-CO2/千m

基準年を 2023 年度、PPa 導入に伴い、2025 年度は 基準年より 5%削減目標とした

B. 産業廃棄物 (金属屑)

(1) 環境の負荷状況

金属屑 (インキ・樹脂・溶剤の空き缶等)

年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
排出量(kg)	54,640	61,460	53,250	53,680
*加工数量 (千m)	44,200	50,297	39,613	43,305
加工あたり排出量 (kg) (排出量÷加工数量)	1.2362	1.2219	1.3442	1.2396
対前年比率	103.53%	98.84%	110.00%	92%

(2) 本年度の環境目標

1. 505Kg/千m 「2023 年度排出量 (1.3440) に受注予測(12%増)」より△2.0%削減し、
- 1.4752Kg/千m以下を目指す

(3) 本年度の活動取組 (計画 → 結果)

- ・会社目標の取り組み“生産性UP”により、効率の良い工程計画を立てるように管理する (同じ樹脂を使う製品は、まとめて生産する等)
→ PTP生産時の“平均工程数”を把握し、この数値を小さくするように工程計画の管理を行う
- ・溶剤の統合 → 一部の希釈溶剤に関して統合実施済
- ・溶剤回収装置の導入、洗浄溶剤一斗缶の削減→実施済

(4) 結果

内容	目標	結果	判定
金属屑の削減	1.4752kg/千m 以下	1.2396kg/千m	○

(反省) 2024 年度は、受注量が徐々に回復してきた為、作業効率が良い工程が実現でき、加工当たりの排出量が達成できた、

(次年度の取組) 引き続き昨年度と同様の取り組みを実施し計画停止も含め、作業の効率が良くなるように計画を立てる。受注量が減る事により加工当たりの排出量は増える場合は、排出量でも注意し管理していく

中期目標	2025 年度	2026 年度	2027 年度
加工mあたり金属屑発生量	1.3100 kg/千m	1.2838 kg/千m	1.2576 kg/千m

C. 産業廃棄物 (廃プラスチック)

(1) 環境の負荷状況

廃プラスチック・フィルム

年度		2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
排出量 (t)		36.49	34.39	34.15	33.960
二酸化炭素排出量 (t)		94,874	89,420	88,788	88,296
加工数量(千m)		44,200	50,297	39,613	43,305
加工あたり排出量 (発生量÷加工数量)	重量 (kg)	0.8255	0.6837	0.8623	0.7842
対前年比率		118.8%	82.8%	126%	91%

(2) 本年度の環境目標

- 0.965 kg/千m 「2023 年度排出量 (0.862) に受注予測(12%増)」より△2.0%削減し
- 0.946 m³/千mを目標とする

(3) 本年度の活動取組（計画 → 結果）

工程内で発生する屑の分別・リサイクル化の徹底を継続する
排出量を' ' 廃プラ' ' と' ' 廃ウエス' ' の混合物として算出する

(4) 結果

内容	目標	結果	判定
廃プラの削減	0.946 kg/千m以下	0.7831 kg/千m	○

(反省) 2024年度は、受注量が徐々に回復してきた為、作業効率が良い工程が実現でき加工当たりの排出量の目標が達成できた。

(次年度の取組) 引き続き昨年度と同様の取り組みを実施し受注量が減る事により加工当たりの排出量は増える場合は排出量でも注意し管理していく

中期目標	2025 年度	2026 年度	2027 年度
加工千mあたり廃プラ排出量	0.810 kg/千m	0.806 kg/千m	0.802 kg/千m

D. 水使用量の削減

(1) 環境の負荷状況

総排水量

年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
公共用水域(m ³)	21,177	11,479	21,436	25,915
下水道(m ³)	2,530	1,562	1,383	1,555
計(m ³)	23,707	13,041	22,819	27,470
対前年比率	78.0%	55%	175%	120%
加工数量(千m)	44,200	50,297	39,613	43,305
加工千m当たりの排水量	0.536	0.259	0.576	0.634

(2) 本年度の環境目標

2020年度の実績 0.699 m³/千m より△2.0%削減の 0.685 m³/千m 以下を目指す。

(3) 本年度の活動取組（計画 → 結果）

・ 不要な時間帯の屋根散水・融雪散水を減らす。

(4) 結果

内容	目標	結果	判定
水使用量の削減	0.685 m ³ /千m 以下	0.630 m ³ /千m	○

(反省) 2024 年度、8～10 月は猛暑となりエアコンの使用電力を削減する為、屋根散水を実施、また 2 月から豪雪の為融雪に使用したため増加した

(次年度の取組) 引き続き、稼働しない日の屋根散水、融雪の使用を抑える。
次年度は 2020 年度を基準にして目標を見直す

中期目標	2025 年度	2026 年度	2027 年度
総排水量	0.685 m ³ /千m	0.6882 m ³ /千m	0.678 m ³ /千m

E. 化学物質の使用量の削減

(1) 環境の負荷状況

取扱いの禁止はされていないが、環境にやさしくない物質では、PVC 及び PVC 混合物を VC 剤・PTP アルミシート用インキで、トルエン（PRTR 法対象物質）を溶剤で使用している。

年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
トルエン使用量 (kg)	165,046	182,428	156,802	165,282.
加工あたり使用量 使用量÷加工数量 (kg/千m)	3.734	3.627	3.958	3.8167
対前年比率	104.45%	101.45%	109.12%	96.43%
*加工数量(千m)	44,200	50,297	39,613	43,305

(3) 本年度の環境目標

- 4. 4322. kg/千m 「2023 年度排出量 (3.958) に受注予測(12%増)」より△2%削減の
- 4. 344kg/千m以下を目指す

(3) 本年度の活動取組（計画 → 結果）

- ・生産技術課は、定期的に、禁止物質のリストを入手する。（以下 3 種類）→入手済み
 - a. 印刷インキ工業連合会
食品包装材料用印刷インキに関する自主規制 NL 規制リスト
 - b. 食品包装材料用接着剤等衛生協議会
食品包装材料用接着剤に関する自主規制リスト
 - c. 顧客要求事項の外部文書
(a b. に関しては、軟包装衛生協議会 食品及び医薬品の包装に関する素材衛生マニュアル内に記載)
- ・新規の禁止物質がある場合は、生産技術課は、文書管理システムの「SDS」の項目に文書の登録を実施して、全社員が閲覧できるように開示を行う。
- ・希釈溶剤の統合計画（トルエンの配合比率の少ない溶剤へ）→ 運用開始済

(4) 結果

内容	目標	結果	判定
化学物質使用量の削減	4.344 kg/千m 以下	3.774 kg/千m	○

(反省) 2024年度は、受注量が徐々に回復してきた為、作業効率が良い工程が実現でき排出量及び投入当たりの目標達成できた。次年度は、受注予測と基準年度を比較し目標を定めたい。

(次年度の取組) 引き続き昨年度と同様の取り組みを実施。受注量の情報をいち早く収集し、排出量及び加工当たりの排出量が増加しない工程設計を立てる

中期目標	2025 年度	2026 年度	2027 年度
加工千mあたりトルエン使用量	3.875 kg/千m	3.856 kg/千m	3.836 kg/千m

F. 自らが生産・販売する製品に関する項目

(1) 排ガス処理装置の維持管理

- ・日常点検 → VOC が適正に処理されるように、本社工場・第2工場・第3工場の処理設備の日常点検を実施して常時、適正な処理運転が確保されるように管理
- ・年次点検 → 2025年03月08日外部設備業者に委託して、安定した稼働が確保されるようにメーカー点検を実施

(2) CSR活動

- ・2024年4月25日と10月24日に、近隣の清掃活動を実施しました。



IV章 環境関連法規等の確認と遵守

当社に適用される環境関連法規や顧客制定環境関連規定をチェックし、その評価・結果を確認した所、特に問題はなし。環境関連法規一覧は別紙、消防法、建築基準法、労働安全衛生法等、悪臭防止法、振動規制法、騒音規制法、土壤汚染対策法、特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律、エネルギーの使用の合理化に関する法律、廃棄物処理法等を遵守しています。

V章 異常時の処理

製品において使用禁止物質の使用・混入があった製品は、品質的に不合格品とし、「KQM121：不適合品管理標準」に従う。

事故や火災、天災等の緊急事態の場合は、「SJB001：緊急対処マニュアル」に従う。

環境活動において、問題が発生した場合は、環境管理責任者は適切な是正処置を講じて問題解決にあたる。

- 使用禁止の使用・混入について

2024 年度中に使用禁止物質の使用・混入の発生はありませんでした。

- 事故・天災による緊急事態の発生について

2024 年度、事故天災等ありませんでした。

2024 年 11 月 18 日 富山消防と合同で第 12 回避難訓練を実施。

※日程については富山消防より要望がありました。

VI章 環境コミュニケーション

外部から環境に関する苦情・要望があった場合は、「K-35：環境に関する外部からの苦情・要望記録」を用いて記録し、誠実に対応する。

環境活動レポートは、エコアクション21 中央事務局の HP を通して公開します。

近隣住民より、苦情はありませんでした。

代表者による見直し

環境方針：変更無

環境目標及び活動計画：変更有

※2025 年度は PPA 導入 1 1 月～3 月を元に目標設定。

2026 年度は通年での二酸化炭素排出量実績から目標の設定。

実施体制：変更有

※環境管理責任者を変更